

An aerial photograph showing a long stretch of coastal land. The left side shows a sandy beach meeting the ocean. The right side shows a large area of land covered in a grid-like pattern of green vegetation, likely young trees or saplings, which has replaced the previous coastal forest. A river or stream flows through the regenerated area. In the distance, there are some industrial buildings and structures.

海岸林再生活動10年の軌跡

令和3年7月21日
(石碑建立記念)

名取市海岸林再生の会

名取市海岸林再生活動の軌跡

平成23年 (2011)	3月11日	東日本大震災発生 太平洋沿岸に津波による甚大な被害
	3月17日	(公財)オイスカ 林野庁に海岸林再生活動を申し入れる
	5月24日	(公財)オイスカ 名取市等関係機関及び被災者と意見交換
	〃	(公財)オイスカ 海岸林再生活動の場を名取市に絞る
	9月19日	蔵王町の苗木生産者視察
	9月22日	(公財)オイスカ 名取市等関係機関及び被災者と意見交換
	11月28日	被災農家等が宮城県林業種苗生産事業者講習を受講する
	2月29日	名取市海岸林再生の会設立総会 被災農家を中心に25名で結成
	3月3~4日	防風柵設置作業 前田建設工業社員
	3月9日	種苗組合からクロマツの種子配布 種苗研修会にて
平成24年 (2012)	3月11日	再生の会会員による防風柵ヘネット取り付け
	3月13日	農業委員会へ育苗場借地契約済み届け
	3月30日	クロマツ種子播種 (普通播種2.0kg 97,500粒)
	4月17日	散水用井戸掘削
	5月1日	今春播種したクロマツの発芽を確認、藁コモを剥がす
	5月31日	(公財)オイスカ会長来園
	6月25日	育苗用ビニールハウス組立て設置
	6月28日	宮城県による苗木生産本数調査 (以後毎年春・秋実施)
	7月9日	名取市へ海岸林再生に関する提言書をオイスカと共に提出
	10月18日	再生の会役員会 (オイスカとの協定内容、事業会計他)
平成25年 (2013)	10月30~31日	会員視察研修 (能代・由利本荘の海岸林他)
	11月22日	業務計画樹立打合せ会議 (オイスカと再生の会合同で毎年開催)
	12月11日	コンテナ苗植栽現地検討会 (種苗組合主催、以後年数回参加)
	1月9日	NHK仙台ラジオへ出演 (海岸林再生活動紹介、佐々木、高梨)
	1月17日	オイスカ宮城県支部で再生活動の進捗を紹介 (以後年2回実施)
平成25年 (2013)	2月15日	事業打合せ会議 (再生の会開催会員参加)
	2月18日	名取市長会見 (海岸林再生造林への協力と協定締結を要請)
	3月8日	育苗場土壤調査 (肥料設計のため)
	3月22日	種苗組合総会 (会員3名出席、以後毎年出席)
	3月30日	床替実行の1年生苗木の根切り (佐藤靖氏に依頼)
	4月12日	床替えのための抜取開始
	4月15日	事務局事務パート採用 (雇用通知書交付)
	4月16日	1年生苗木の移植開始 (斎藤氏から借りた床替機を使用)
	4月20日	クロマツ種子播種 (1.0kg、普通25,000粒)
	4月29日	クロマツ種子播種 (0.5kg、普通25,000粒、第二圃場)
平成26年 (2014)	5月9~10日	クロマツ種子コンテナ播種 (0.5kg、普通22,500粒)
	6月4日	アフリカ記者団来訪 (海岸林再生状況の取材)
	6月5日	オイスカ本部役員・職員の勉強会へ招待
平成25年 (2013)	6月27日	再生の会第1回通常総会開催 (以後毎年開催)
	7月12日	名取市長へ協定締結について申入れ (オイスカ会長他8名)
	7月24日	仙台森林管理署及び宮城県森林整備課へ協定申入れ説明
	9月4~5日	種苗組合研修 (4名参加、花巻市、住田町)
	10月30日	会員視察研修 (福島県内苗木生産者視察、30名参加)
	11月15日	国有林が海岸林再生活動公募現地案内 (事務局長他2名参加)
	1月15日	種苗組合研修会 (当育苗場で開催、当会より5名参加)
平成26年 (2014)	2月6日	種苗組合より抵抗性クロマツ・アカマツの種子受取 (1.15kg)

平成23年 (2011)	2月13日	再生の会役員会 (新規加入希望者等について)
	〃	NHK仙台取材 (会員4名取材協力)
	2月28日	国有林の再生造林に関する協定を森林管理署とオイスカ締結
	3月18日	クロマツ苗木の根切り
	4月12日	総理大臣主催「桜を見る会」に当再生の会長出席
	4月21日	造林技術研修開催 (森組作業員50名を対象に造林基礎を講義)
	4月28日	植付事業開始 (植付面積16ha、8万本)
	〃	苗木抜取・出荷開始 (当育苗場から上記植付苗木の供給)
	5月1日	名取市長植付現場を視察
	5月2日	クロマツ他種子播種 (1.5kg、抵抗性46,500粒普通22,000粒)
平成24年 (2012)	5月24日	第一回植樹祭開催 (参加者350人、以後30年まで毎年開催)
	6月21日	募集ボランティアによる除草等作業の受け入れ (以後毎月)
	11月13~14日	会員視察研修 (東松島方面31名参加)
	1月21日	内陸防風林再生計画説明会 (市主催、オイスカ・再生の会へ依頼)
	2月24日	再生の会事業打合せ会議 (31名参加)
	3月19日	種苗組合より抵抗性クロマツ・アカマツの種子受取 (1.65kg)
	4月21日	植付前造林技術研修 (森組作業員23名対象、以後毎年実施)
	4月27日	クロマツ他種子播種 (1.65kg、抵抗性92,000粒)
	8月28日	林野庁国有林野部長視察
	3月12日	海岸林再生定期報告会 (オイスカと共に、名取市民92名参加)
平成28年 (2016)	4月18日	植付事業開始 (植付面積11ha、5.6万本)
	5月2日	クロマツ他種子播種 (2.0kg、抵抗性100,000粒)
	5月21日	第3回植樹祭に宮城県知事来訪
	7月26日	オイスカ会長視察
	10月26日	苗木コンクール出展審査 (宮城県による現場調査)
平成29年 (2017)	3月24日	県山林苗畑コンクールで宮城県知事より最優秀賞受賞
	4月17日	植付事業開始 (植付面積14ha、7.4万本)
	4月27日	クロマツ他種子播種 (1.2kg、抵抗性57,000粒)
平成29年 (2017)	5月20日	第4回植樹祭に石破オイスカ議連会長来訪
	6月27日	事務所移転工事
	7月24日	第1回インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞受賞
	9月7日	全国苗木生産者の集い参加 (福岡市)
	〃	全国山林種苗コンクール林野庁長官賞を受賞
平成30年 (2018)	2月9日	土井復興庁副大臣来訪視察 (宮城復興事務所他19名)
	4月16日	植付事業開始 (植付面積16ha、8.4万本)
	4月26日	クロマツ他種子播種 (1.05kg、抵抗性50,000粒)
	7月26日	復興大臣感謝状授与
	9月30日	名取市長より表彰
	10月4日	緑化推進機構より表彰
令和元年	10月31日	名取市長より感謝状受賞
	5月9日	植付事業開始 (植付面積2ha、北釜地区残存林)
令和2年 (2020)	1月16日	小林省太氏取材のため来所
	5月12日	植付事業開始 (植付面積1.57ha、北釜地区追加分)
	8月25日	集合方式総会の中止と書面決議通知発送
	10月5日	秋植付事業開始 (植付面積2.18ha、北釜地区追加)
	〃	区域面積103ha、植付面積約73ha、約37.5万本の植栽を完了
令和3年 (2021)	4月26日	岩沼堺刈開き
	5月17日	本数調整伐試験地伐採搬出 (20m×20m×3ヵ所)
	6月1日	名取市より石碑建立敷貸与許可
	6月15日	宮城県より石碑建立敷保安林作業行為許可
	7月21日	海岸林再生の碑建立、除幕式挙行 (会員等40名出席)



被災直後を名取海岸から閲上方面



名取市東部震災復興の会との最後の協議



宮城県林業種苗生産事業者講習会

蔵王町育苗家視察記念撮影

3月10日～12日 防風ネット設営風景

播種前の講習会



種苗組合長よりクロマツ種の引渡し

播種時の安全・発芽祈願

播種風景



クロマツ播種床準備の堆肥散布作業

播種作業後の集合写真

発芽祈願懇親会



昭和33年に海岸林造成を記念して広浦湾南に建立した愛林の碑

2012年 オイスカが公募した被災海岸等見学会



オイスカ募集見学会にて講義する太田猛彦先生

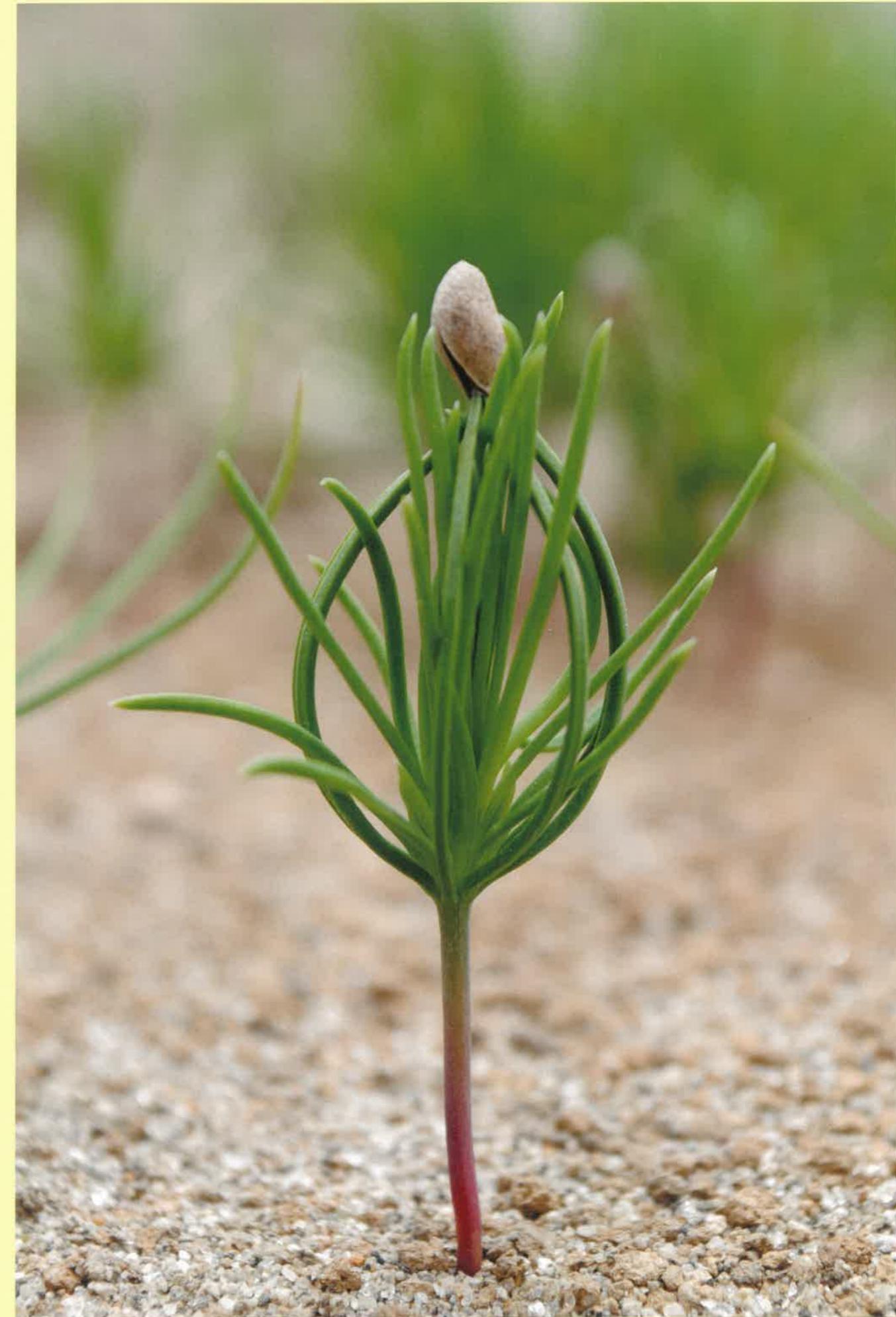
事務所開き・お祓い



除草作業



播種後最初の除草



発芽したクロマツ

2013年 第一回総会



名取市文化会館にて第1回定期報告会



床替え苗の抜取



液肥散布風景



1年生苗の床替移植のための根切り開始



コンテナ育成苗の成育状況



抵抗性クロマツのコンテナ播種(300g発芽見込11,574粒コンテナ台数562台)



普通クロマツ播種作業 (1kg 75,000粒)



名取市に協定申し入れ

2014年 第一回植樹祭（国有林・市有林1ha、5,000本、350人参加）

植栽作業を激励に訪れた佐々木名取市長

植樹祭の救護と総合案内担当者



森組作業班による植付の様子

播種して3ヵ月の稚樹



オイスカ中野会長苗畑視察



播種準備のためのコンテナ移動



クロマツの種蒔き



掘り取った苗木の仮植



コンテナ苗の根の伸長状況

育苗講習（内部研修）



出荷苗木の根切り

2015年 14年植栽箇所の遠景



コンテナ点検



2015年

コンテナ播種作業



県による山林種苗品評会審査の様子



2015年

再生の会、現場視察研修会



森林組合作業班の植栽風景



日本記者クラブへ招待



抜取苗木の根切り



2015年

2016年 空中断根を実地したコンテナ苗木



空中断根完了の苗床移動



再生の会研修会



2016年

植栽初日の作業指示



第3回植樹祭に出席した県知事



植樹祭の苗木供給等後方支援の様子

平成二十八年五月二十一日
宮城県産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ 一万本
三和建設株式会社



第二育苗場から苗移動出荷



播種作業と2年目の苗木



2016年

2017年 再生の会総会

植樹祭に出席いただいた石破議連会長と



事務所移転先 地鎮祭



土井亨復興副大臣視察



植樹祭 (2.03ha、約10,000本)



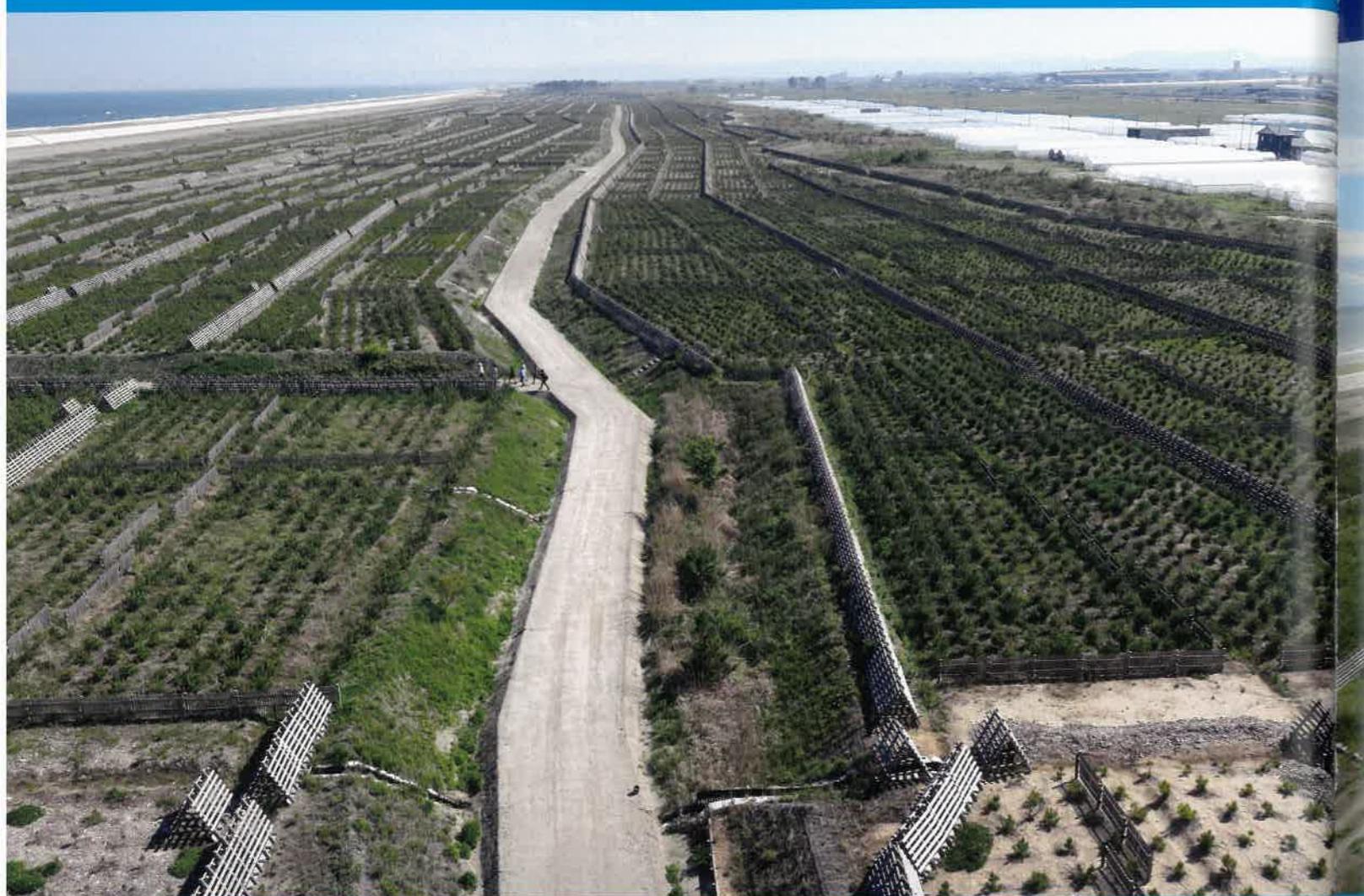
植樹祭にて苗木供給等後方支援



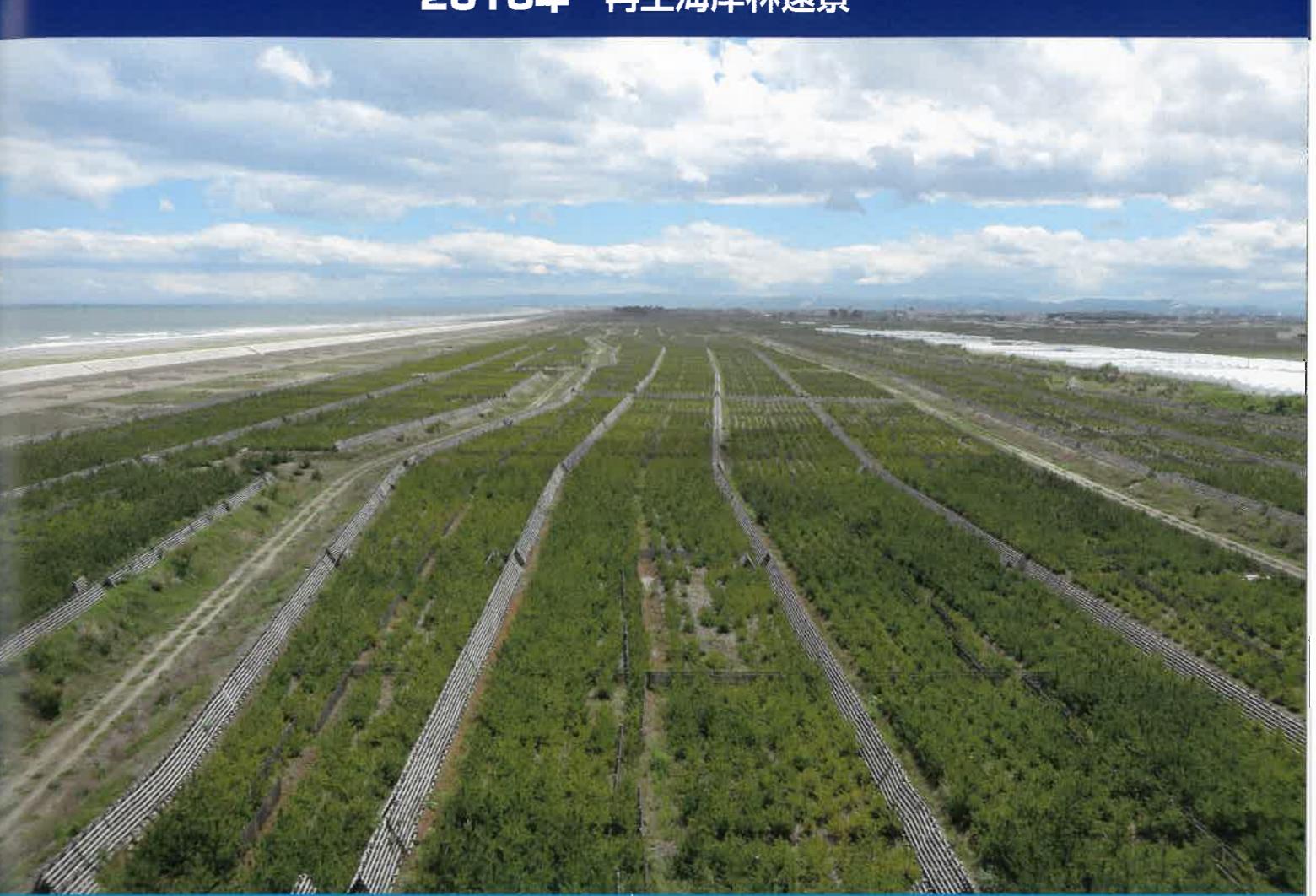
2017年



植林地の遠景



2018年 再生海岸林遠景



森林組合作業班と記念撮影



冬の再生植林地風景



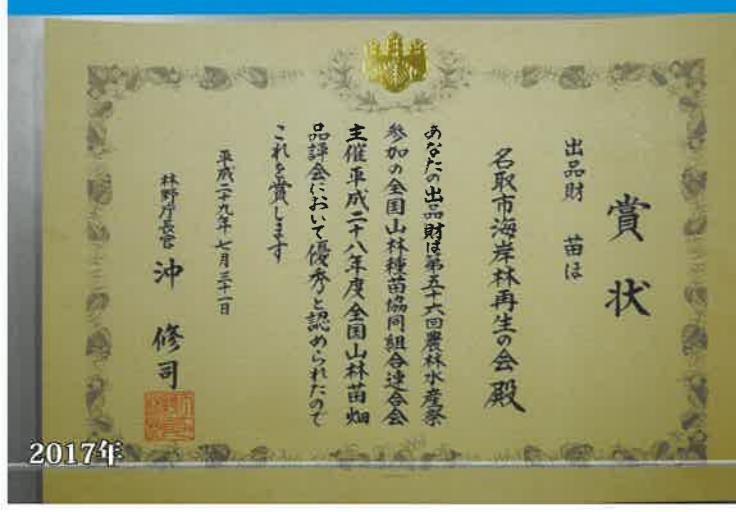
市長より感謝状授与



初冬の寒冷紗掛け



平成28年度全国山林苗畠品評会にて、林野庁長官賞を受賞



第1回インフラメンテナンス大賞「農林水産大臣賞」受賞式



植樹祭（1.87ha、9,300本、530人参加）



名取海岸林全景（林野庁東北森林管理局仙台森林管理署提供）



2018年

2017年

2019年 散水と苗木点検



新たな育苗場へ引っ越し

苗木移植整理

2020年 2014年から植栽した海岸林の遠望



2014年植栽箇所の生育状況

造林地のシンクイムシ駆除



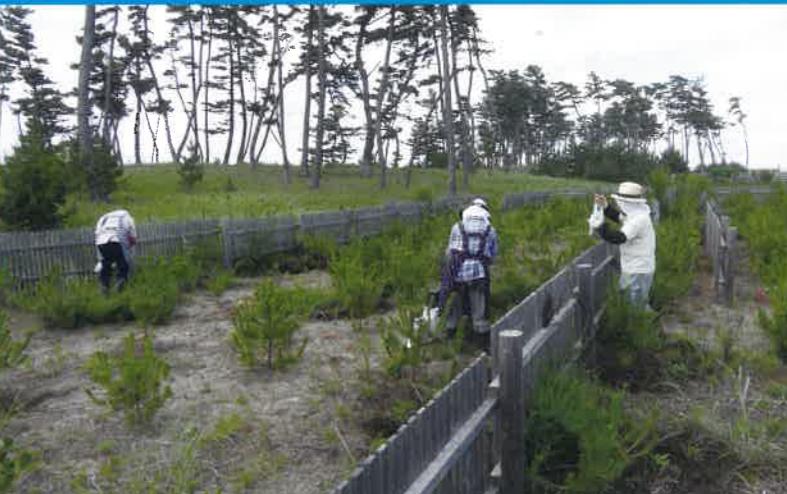
林間植栽植付指導風景



26年植栽箇所成長状況



2019年



ボランティアによるクズツル駆除



2020年



市長等による最後の植樹



海岸林再生の碑

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、岩手県沖から福島県沖南北五百kmに亘る広い震源域とするマグニチュード九・〇の巨大地震が発生、震源域中心が宮城県牡鹿半島沖百km、深さ二十四km、宮城県栗原市で最大震度七を記録、北海道から近畿地方までの広い範囲で地殻を観測した。この地震によって巨大津波が発生、同日午後三時五十分に太平洋沿岸に到達、青森県から千葉県までの広い沿岸に押し寄せ、仙台空港隣接海岸では高さ十ニメに達するなど、岩手県沿岸から福島県沿岸にかけて特に甚大な被害が発生、全国で死者一万四百三十人、行方不明者千三百十五人という未曾有の被害が発生した。

名取市においても震度六強の地震が発生、押し寄せた津波は海岸から五・五km内陸に到達、死者九百二十二人、行方不明者四十一名が出るなどの甚大な被害が発生、住宅や農地に加え、農業や生活を湖害や風害から守ってきた海岸林が大部分が倒壊して農業を営んでいた人々を名取市内の避難所等に訪ね、海岸林再生事業に協力したいと申し入れを行うとともに、名取市海岸林近隣で農業を営んでいた人々を名取市内の避難所等に訪ね、海岸林再生事業に協力したいと申し入れた。

一方、公益財団法人オイスカは、海岸林再生プロジェクト十カ年計画を立ち上げ、国、宮城県、名取市に材し海岸林再生に協力したいと申し入れを受けて、北釜地区と杉ヶ袋地区の被災農家を中心となり、平成二十四年二月二十九日に二十五名が参加して「名取市海岸林再生の会」を結成、オイスカと連携・協力して名取の海岸林再生に取り組むことになった。

名取市海岸林再生の会は、オイスカとの委託契約により会員の雇用対策も兼ねてクロマツ苗木の生産から開始、再生植林面積約百ヘクタールに必要な苗木年間五万本、十年間で五十万本を目指し苗木生産を開始した。苗畑は下増田北原東の個人所有の畠六千畠を借地契約により確保、その一部にオイスカと共同使用する事務所、休憩施設等を設置した。

オイスカと名取市海岸林再生の会は平成二十六年三月、海岸林のうち県有林、市有林八十九ヘクタールについては仙台森林管理署と協定を締結し、植林及び保育等に協力するとともに、これ等に掛かる経費については、オイスカが寄付を募って全額負担することにした。

平成二十六年四月二十八日から宮城中央森林組合に発注して植林を開始、令和二年五月まで追加造成地と合わせ区域面積百三ヘクタール、植林面積七二・四ヘクタール、三七万五千本の植栽を完了、活着率も九九%を超える高い成績を残した。

この植林に合わせ、平成二十六年から同三十年までの五回の植樹祭を開催、宮城県民等延べ三千人が参加、十ヘクタール、五万本の植樹を行った。これに必要な苗木の供給や植栽指導等を宮城中央森林組合とともに当再生の会が行っている。

平成二十八年からは下刈、つる切・除伐も開始し、振動機械を扱う作業等資格・熟練を要する作業は、宮城中央森林組合及び松島森林組合に発注。その再生復興を後世に伝えるため、ここに「海岸林再生の碑」を建立する。

令和三年七月吉日 名取市海岸林再生の会 建立

松がつなぐあした 震災10年海岸林再生の記録

東日本大震災の津波で消失した宮城県名取市の海岸防災林100ヘクタールの再生に取り組む被災農家や地元の人々と、NGOオイスカの10年の活動を追ったドキュメント。あわせて、海岸防災林の役割や防災林としてのクロマツの適性、松くい虫対策なども解説。被災地に限らず、南海トラフ地震などの大規模な地震の発生が予測されている中、全国津々浦々に存在する海岸林の育成には長い年月にわたる不断の手入れが必要であり、そのためには若い世代の関心・関与が欠かせないことも強調している。

2020年12月発行 愛育出版 1,300円+税

【著者】小林省太（こばやし しょうた）

1955（昭和30）年東京都生まれ。
東京大学文学部卒。日本経済新聞社入社。ウィーン支局長、パリ支局長、文化部長などを経て論説委員。
退職後、公益財団法人オイスカのアドバイザー。



震災10年
海岸林再生の記録

小林省太



名取市海岸林再生の会

公益財団法人才イス力関係者

会長 鈴木英二	会員 大友仁	前会長 中野良子
副会長 櫻井重夫	洞口睦夫	理事長 中野悦子
同右 森幸一	菊地義巳	技術参事 清藤城宏
事務局長 佐々木廣一	佐藤孝治	担当部長 吉田俊通
幹事 森清	洞口勇次	広報室長 林久美子
同右 大友祐一郎	川島信子	啓発普及部 浅野奈々穂
監事 高梨仁	菅野元子	啓発普及部 鈴木和代
会員 櫻井恵子	加藤芳雄	
高梨やよい	武田昭夫	
森輝子	大友清康	
高橋学	佐々木廣一	
櫻井勝征	事業統括(参事)	
かづ子	佐々木廣一	
佐藤峰男		
佐藤裕子		



海岸林再生の碑

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、岩手県沖から福島県沖南北五百kmに亘る広い震源域とするマグニチュード九・〇の巨大地震が発生、震源域中心が宮城県牡鹿半島沖百km、深さ二十四km、宮城県栗原市で最大震度七を記録、北海道から近畿地方までの広い範囲で地震を観測した。この地震によつて巨大津波が発生、同日午後三時五十二分に太平洋沿岸に到達、青森県から千葉県までの広い沿岸に押し寄せ、仙台空港隣接海岸では高さ十二mに達するなど、岩手県沿岸から福島県沿岸にかけて特に甚大な被害が発生、全国で死者一万四百三十人、行方不明者千三百十五人という未曾有の被害が発生した。

名取市においても震度六強の地震が発生、押し寄せた津波は海岸から五・五km内陸に到達、死者九百二十一人、行方不明者四十一名が出るなど甚大な被害が発生、住宅や農地に加え、農業や生活を潮害や風害から守つてきた海岸林百二十六ヘクタールもほぼ全域が壊滅的被害を受けた。

名取市の海岸林の所有区分は、内陸側から国有林、市有林、県有林となつており、宮城県と名取市は海岸林の復興再生事業を国（林野庁）が行うことになつた。平成二十三年から三mを基本とした盛土工事が林野庁東北森林管理局仙台森林管理署により開始されることになった。

一方、公益財団法人オイスカは、海岸林再生プロジェクト十カ年計画を立ち上げ、国、宮城県、名取市に対し植林等海岸林再生に協力したいと申し入れを行うとともに、名取市海岸林近隣で農業を営んでいた人々を名取市内の避難所等に訪ね、海岸林再生事業に協力してもらいたいと申し入れた。これを受けて、北釜地区と杉ヶ袋地区の被災農家が中心となり、平成二十四年二月二十九日に二十五名が参加して「名取市海岸林再生の会」を結成、オイスカと連携・協力して名取の海岸林再生に取り組むことになった。

名取市海岸林再生の会は、オイスカとの委託契約により会員の雇用対策も兼ねてクロマツ苗木の生産から開始、再生植林面積約百ヘクタールに必要な苗木年間五万本、十年間で五十万本を目標に苗木生産を開始した。苗畑は下増田北原東の個人所有の畠六千m²を借地契約により確保、その一部にオイスカと共同使用する事務所、休憩施設等を設置した。

オイスカと名取市海岸林再生の会は平成二十六年三月、海岸林のうち県有林、市有林八十九ヘクタールと内陸防風林三・六四ヘクタールについては宮城県、名取市と、国有林のうち二・九一ヘクタールについては仙台森林管理署と協定を締結し、植林及び保育等に協力するとともに、これ等に掛かる経費については、オイスカが寄付を募つて全額負担することにした。

平成二十六年四月二十八日から宮城中央森林組合に発注して植林を開始、令和二年五月まで追加造成地と合わせ区域面積百三ヘクタール、植栽面積七二・四六ヘクタール、三七万五千本の植栽を完了、活着率も九九%を超える高い成績を残した。

この植林に合わせ、平成二十六年から同三十年まで五回の植樹祭を開催、宮城県民等延べ三千人が参加、十ヘクタール、五万本の植樹を行つた。これに必要な苗木の供給や植栽指導等を宮城中央森林組合とともに当再生の会が行つてゐる。

平成二十八年からは下刈、つる切・除伐も開始し、振動機械を扱う作業等資格・熟練を要す作業は、宮城中央森林組合及び松島森林総合に発注。人力で行うこと適した作業については、年間二千人に及ぶボランティアにより実行し、平成二十六年植栽したものは、五mに達するものもあるなど順調な生育をしている。

今後もオイスカと連携して本数調整伐等保育に協力し、人々が安寧に暮らせる多面的機能をした防災林に育つよう、活動を継続して行くことにしているが、この海岸林再生に係る植林完了を機に、海岸林再生復興に尽力されたすべての人々と関係機関に敬意を表し、併せて、この未曾有の大震災とその再生復興を後世に伝えるため、ここに「海岸林再生の碑」を建立する。

令和三年七月吉日 名取市海岸林再生の会建立

撰文 佐々木廣一